

## 再 評 価 調 査 書

I 事業概要									
事業名	林道事業(過疎山村地域代行林道事業)								
地区名	てざわせん 手澤線								
事業箇所	きたしたらくんとよねむらとみやま 北設楽郡豊根村富山 地内								
事業のあらまし	<p>手澤線は、北設楽郡豊根村富山地区に位置し、県道「飯田富山佐久間線」と県道「津具大嵐停車場線」を結ぶ幹線的な林道である。</p> <p>佐久間ダム上流部にある当地域は、豊富な森林資源を有しており、この森林資源の有効活用及び森林の適切な管理・保全のため、さらには地域交通の改善に貢献するための幹線林道が必要とされていた。</p> <p>そのため、1995年に国庫補助採択を受けるとともに、1996年4月19日に山村振興法に基づく基幹道路の指定を受け、以降、県営により開設事業を実施している。</p> <p>林道開設により、経済的かつ効率的な森林整備や、水源かん養機能など森林の持つ公益的機能の維持増進及び木材生産性の向上を図ることとしている。</p>								
事業目標	<p>【達成(主要)目標】</p> <p>森林整備の効率化</p> <p>林道を開設することにより、事業着工後、間伐等の森林整備を1年あたり利用区域面積(670ha)の1%実施する。</p> <p>【副次目標】</p> <p>—</p>								
計画変更の推移		事業採択時 (1995)	再評価時 (1回目) (2004)	再評価時 (2回目) (2009)	再評価時 (3回目) (2014)	再評価時 (4回目) (2019)	再評価時 (5回目) (2024)	変動要因の分析	
	事業期間	1995～ 2024	1995～ 2024	1995～ 2024	1995～ 2024	1995～ 2032	1995～ 2032	—	
	事業費 (億円)	24.0	24.0	24.0	24.0	29.3	29.3	—	
	経費内訳	工事費	24.0	24.0	24.0	24.0	29.3	29.3	—
		用補費	—	—	—	—	—	—	—
その他		—	—	—	—	—	—	—	
事業内容	林道開設 延長9,264m 幅員4.0m	林道開設 延長9,264m 幅員4.0m	林道開設 延長9,264m 幅員4.0m	林道開設 延長9,264m 幅員4.0m	林道開設 延長9,264m 幅員4.0m	林道開設 延長9,264m 幅員4.0m	林道開設 延長9,264m 幅員4.0m		

II 評価

①事業の必要性の変化

1) 必要性の変化

**【事前評価時の状況】**  
 当路線の利用区域内には、間伐などの森林整備を必要とする区域が広がっているが、必要な路網が整備されておらず林内へのアクセスが困難であるため、林道の整備が必要である。

**【再評価時の状況】**  
 既に林道が開設された区間では、間伐などの森林整備が実施されており、事業目標値を上回るペースで実施されているが、未開設区間では森林整備が進んでいない。  
 ・事業目標値 254.6ha に対し森林整備実績は 275.8ha 進捗率は 108.3%  
 今後、未開設の区間での搬出を伴う間伐の計画を進めるため、引き続き林道開設が必要な状況に変化はない。  
 ・実施見込みの森林整備面積 370.3ha、森林整備実績は 275.8ha 実施予定面積 94.5ha

**【変動要因の分析】**  
 近年、富山地区では人口が著しく減少しているが、当路線の開設は豊根村全体の林業振興に寄与している。また、台風や線状降水帯などの豪雨による自然災害の頻発化、激甚化に伴い、森林の有する山地災害防止機能等の重要性が増しており、今後さらに森林整備を加速させるために林道が必要である。

判定

**B**

A：事業着手時に比べ必要性が増大している。  
 B：事業着手時に比べ必要性にほとんど変化がない。  
 C：事業着手時に比べ必要性が著しく低下している。

**【理由】**  
 既に開設済の区間では森林整備の実績があり、今後も森林整備の推進のために林道事業は必要。  
 森林の持つ公益的機能を発揮させるための森林整備の重要性は増しており、林内へアクセスするための林道の必要性も増大している。

②事業の進捗状況及び見込み

1) 進捗状況

**【事業計画及び実績】**

		1995～2013	2014～2018	2019～2023	2024～2028	2029～2032	計	
工程区分	調査・設計	←-----→						
	林道開設工事	←-----→						
	その他							
事業費(億円)	当初計画	24.0億円					24.0億	
	実績	12.4億円	4.0億円	3.2億円			19.6億	
	現計画	12.4億円	4.0億円	4.4億円	4.7億円	3.8億円	29.3億	

**【進捗率】**

	これまでの計画に対する達成状況			全体進捗状況	
	計画【①】	実績【②】	達成率(%)【②÷①】	計画【③】	進捗率(%)【②÷③】
延長(km)	9.3	5.0	54	9.3	54
事業費(億円)	29.3	19.6	67	29.3	67
工事費	29.3	19.6	67	29.3	67
用補費	—	—	—	—	—
その他	—	—	—	—	—

**【施工済みの内容】**  
 林道開設延長 4,999m

**【事後評価に準ずるフォローアップ】**  
 開設済みの箇所から林道の供用を開始しており、森林の整備が進んでいる。  
 全体計画の達成目標値 254.6ha に対し、275.8ha の森林整備が実施されている。

	2) 未着手又は長期化の理由	前回評価時の地形及び地質などの要因により開設が困難な区間の見通しを踏まえた計画に沿って事業を進めており、今回の計画における変更点はない。																																																								
	3) 今後の事業進捗の見込み	<p>【阻害要因】</p> <p>阻害要因となっていた施工が困難な岩盤及び急峻な地形、脆弱な土質の区間は今後減少する見込み。今後は計画どおりの事業実施が見込まれる。</p> <p>【今後の見込み】</p> <p>前回評価時の計画に沿って 2032 年度に完了予定。</p>																																																								
判定	B	<p>A：これまで事業は順調であり、引き続き計画通り確実な完成が見込まれる。</p> <p>B：次のいずれか（該当する項目に「○印」を付ける）</p> <p>○これまで事業は順調である。今後は多少の阻害要因が見込まれるものの、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>これまで事業が長期化していたが、事業期間を延長したことにより、今後は阻害要因がなく、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> <li>これまでの事業長期化により、事業期間を延長した。今後も多少の阻害要因が見込まれるが、一定の期間等を要すれば、解決できる見通しがあり、ほぼ計画通りの完成が見込まれる。</li> </ul> <p>C：阻害要因の解決が困難で、現時点では、事業進捗の目処がたたない。</p>																																																								
		<p>【理由】</p> <p>今後は、地形等による阻害要因が減少する見込みであり、計画通りに完了することが見込まれるため。</p>																																																								
③事業の効果の変化	1) 貨幣価値化可能な効果（費用対効果分析結果）の変化	<p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析の算定基礎となった要因変化の有無】</p> <p>無：再評価時（4回目）から要因に大きな変化はない。</p> <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析結果】</p> <table border="1"> <thead> <tr> <th colspan="2">区分</th> <th>事前採択時 (基準年：1995)</th> <th>再評価時 (4回目) (基準年：2019)</th> <th>再評価時 (5回目) (基準年：2023)</th> <th>備考</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td rowspan="3">費用 (億円)</td> <td>事業費</td> <td>—</td> <td>30.1</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>維持管理費</td> <td>—</td> <td>0.1</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計(C)</td> <td>—</td> <td>30.2</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td rowspan="4">効果 (億円)</td> <td>木材生産等便益</td> <td>—</td> <td>10.1</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>森林整備経費縮減等便益</td> <td>—</td> <td>32.7</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>合計(B)</td> <td>—</td> <td>42.8</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td>(参考) 算定要因</td> <td>森林整備面積 (ha)</td> <td>—</td> <td>370.3</td> <td>—</td> <td></td> </tr> <tr> <td></td> <td>木材価格 (円/m<sup>3</sup>)</td> <td></td> <td></td> <td></td> <td></td> </tr> <tr> <td colspan="2">費用対効果分析結果 (B/C)</td> <td>—</td> <td>1.4</td> <td>—</td> <td></td> </tr> </tbody> </table> <p>※金額は、社会的割引率(4%)及びデフレーターを用いて現在の価値に換算したもの。</p> <p>※費用対効果分析については、愛知県公共事業評価実施要領細則により、原則として事前評価（前回評価時）と比べ、その要因が3割を超えて変化している場合、または費用対効果分析結果が1未満になる恐れがある場合に実施するとされており、今回の評価では算出していない。</p> <p>【貨幣価値化可能な効果（費用対効果）分析手法】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul> <p>【変動要因の分析】</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>該当なし</li> </ul>	区分		事前採択時 (基準年：1995)	再評価時 (4回目) (基準年：2019)	再評価時 (5回目) (基準年：2023)	備考	費用 (億円)	事業費	—	30.1	—		維持管理費	—	0.1	—		合計(C)	—	30.2	—		効果 (億円)	木材生産等便益	—	10.1	—		森林整備経費縮減等便益	—	32.7	—		合計(B)	—	42.8	—		(参考) 算定要因	森林整備面積 (ha)	—	370.3	—			木材価格 (円/m <sup>3</sup> )					費用対効果分析結果 (B/C)		—	1.4	—	
	区分		事前採択時 (基準年：1995)	再評価時 (4回目) (基準年：2019)	再評価時 (5回目) (基準年：2023)	備考																																																				
費用 (億円)	事業費	—	30.1	—																																																						
	維持管理費	—	0.1	—																																																						
	合計(C)	—	30.2	—																																																						
効果 (億円)	木材生産等便益	—	10.1	—																																																						
	森林整備経費縮減等便益	—	32.7	—																																																						
	合計(B)	—	42.8	—																																																						
	(参考) 算定要因	森林整備面積 (ha)	—	370.3	—																																																					
	木材価格 (円/m <sup>3</sup> )																																																									
費用対効果分析結果 (B/C)		—	1.4	—																																																						

	2) 貨幣価値化困難な効果の変化	<p>【事前評価時の状況】 該当なし</p> <p>【再評価時の状況】 該当なし</p> <p>【変動要因の分析】 該当なし</p>
	判定	<p><b>A</b></p> <p>A：事業着手時とほぼ同様の事業効果が発現される見通しがある。 B：事業着手時と比べ低下が見られるが、十分な事業効果が確保される見通しがある。 C：事業着手時と比べ著しく低下し、現時点では事業効果が確保される見通しが立たない。</p> <p>【理由】 開設済みの区間においては、「あいち森と緑づくり事業」等により森林整備が目標以上に実施されており、事業着手時を上回る事業効果が発現されている。</p>
<b>III 対応方針（案）</b>		
	<b>継続</b>	<p>中止：上記①～③の評価で一つでもC判定があるもの。 継続：上記以外のもの。</p>
<b>IV 事後評価実施の有無と主な評価内容</b>		
<input checked="" type="checkbox"/> 対象（事業完了後5年目） <input type="checkbox"/> 対象外 <p>【事業完了後5年を越えて実施する理由・対象外の理由】 —</p> <p>【主な評価内容】 間伐などの森林整備の状況から事業効果を確認する。</p>		
<b>V 事業評価監視委員会の意見</b>		
林道事業（手澤線）の対応方針（案）[事業継続]を了承する。		
<b>VI 対応方針</b>		
事業継続		